

令和5年度 調布市立第八中学校 学校経営計画（学校長 馬場 誠）

学校の教育目標	
○自ら考え行動する生徒 ○思いやりのある心豊かな生徒 ○心身ともにたくましい生徒	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
『心理的安全性の高いさわやかな学校を目指して“自分らしく飾らずに”』をスローガンとし、次の生徒像を設定する。 ○「道徳性」の育成・・・・・・・・・・道徳教育や人権教育等を重視し、思いやりのある心豊かな生徒を育成する。 ○「問題発見・解決能力」の育成・・・・主体的、対話的で深い学びを通して、自ら考え行動できる生徒を育成する。 ○「健康・体力づくりに励む力」の育成・・学校行事、部活動、体験学習等を通して、心身ともにたくましい生徒を育成する。	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	○現状 ・素直で素朴さを感じさせる生徒が多く、生活面での乱れはなく、学校生活は落ち着いている。学区外からの生徒が多く、全体の4割近くを占めている。また、通級利用生徒が全体の1割弱となっている。 ・保護者は学校に対して協力的で、PTA活動も活発である。また、地域学校協働本部の活動がコーディネーターを中心に活発に行われており、土曜学習部では、地域ボランティアが多数指導に当たっている。 ○課題 ・魅力ある学校づくり(心理的安全性の高い居場所づくり、授業力の向上、学力の3つの柱の育成、配慮を要する生徒への個別支援) ・インクルーシブ教育の推進(R2・3年度研究推進校の実績を踏まえた取組、校内通級教室拠点校としての取組、インクルーシブ授業に関する指導技術の向上、ICT 機器の効果的活用) ・地域と連携した学校づくり(地域学校協働本部の活動の継続、土曜学習部の運営、各種検定の実施)
中期的な経営目標	
① 生徒が自分らしさを発揮でき、また、自己と他者を大切にする心がもてるような心理的安全性の高い環境をつくる。 ② 全ての生徒に満足度の高い授業を行い、主体的に学習する意欲と態度を育成する。 ③ 健康を保持増進し、体力を向上させようとする意欲や生活習慣を身に付けさせる。 ④ 特別支援教育に全校で取り組むとともに、不登校生徒へ寄り添い社会的自立に向けた支援を行う。 ⑤ 9年間の成長を見通した小中連携教育を充実させる。また、地域との協力体制を推進する。 人材育成・組織運営 職層に応じた資質の向上、不登校への対策、校内OJTの推進、働き方改革	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
① 豊かな心(徳)	② 確かな学力(知)	③ 健やかな体(体)
(1) 取組目標(具体的方策)	(1) 取組目標(具体的方策)	(1) 取組目標(具体的方策)
①学校を心理的安全性が高く安心して自己表現できる場にし、生徒のやる気を引き出す。(多様性を認め合い気兼ねなく自分らしさを出せる学級集団づくり、グループエンカウンター、考え議論する道徳、生徒が主体となって企画運営する学級活動・生徒会活動)	①特別な支援を必要とする生徒を含む全ての生徒に「わかった」「できた」と実感させる授業を行う。(主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、ユニバーサルデザイン授業の実践、スクールサポーターの活用、教員相互の授業参観やOJTチームによる若手育成の実施、生徒による授業アンケート7月と12月、ICTの効果的な活用)	①自分の健康状態に関心をもたせ、健康を保持増進するための実践力を身に付けさせる。(喫煙防止教室・がん教育・薬物乱用防止教室の実施、食物アレルギー事故や熱中症事故防止の意識啓発、給食を通じた食育の推進)
②自己と他者を大切にする心を育てる。(いじめ防止対策委員会、生活アンケートの実施、スクールカウンセラーによる1年生全員面接、自殺防止：SOSの授業、生命の安全教育：性暴力、道徳授業地区公開講座、いのちの授業)	②学ぶ意欲を向上させ、主体的に学習する態度を育成する。(問題発見・解決を取り入れた授業づくり、朝読書を始めた読書に親しむ態度や習慣づくり、学習支援ボランティアを活用した土曜学習部等の取組)	②より豊かで充実した生活を送るための成長・発達に必要な体力を高める意欲や習慣を育てる。(体育祭、運動部活動、水泳教室、冬期の20分間走、体力向上週間)
(2) 成果目標(数値目標)	(2) 成果目標(数値目標)	(2) 成果目標(数値目標)
「毎日学校へ行くのは楽しい。」90%以上 「自分は他人を思いやる気持ちをもっている」90%以上 「子どもは学校での人間関係がうまくできている。(保護者)」85%以上	授業アンケートで各教科・各質問項目における肯定的な評価がすべて80%以上 「毎日の学校の勉強で基本的なことを身に付けている。」90%以上 「家庭学習の習慣が身についている。」70% 「先生たちは分かりやすい授業に努めている。(保護者)」90%以上	「毎日健康な生活を送り、体育の授業や部活動で体力を身に付けている」80%以上 「学校では生徒の健康に配慮し病気やケガ等に適切に対応している。(保護者)」95%以上
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
④ 特別支援教育や不登校支援の充実	⑤ 小学校・保護者・地域との連携	
(1) 取組目標(具体的方策)	(1) 取組目標(具体的方策)	
①支援を必要とする生徒を含む全ての生徒が認め合い支え合える生徒集団を作る。(インクルーシブ教育システムの構築、教員の特別支援教育に関する理解促進、校内通級教室と所属学級の連携、個別の指導計画を活用した個別支援、特別支援校内委員会の充実、特別支援コーデ	①9年間の成長を見通した小中連携の取組を充実させる。(小中連携の日5月と9月、小学生見学会、小中連携合唱発表)	

ィネーターを中心としたチームによる支援体制、生徒理解研修 4 月と 9 月)		
②不登校生徒それぞれに寄り添い、個に応じた多様な社会的自立に向けて支援を行う。(養護教諭を中心とした的確な対応、担任と保護者の日頃からの関係づくり、スクールカウンセラーとの連携、生徒理解支援シートの活用)	②地域コーディネーターを中心とした保護者・地域との協力体制を推進する。(PTA 活動、健全育成地区委員会やまちづくり協議会による地域行事、学習支援ボランティアを活用した土曜学習部・定期考査前自習教室・漢検英検の実施、ホームページやたよりの充実)	
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	
「先生は分かりやすい授業をしている」90%以上 「学校では気軽に話ができる友達がいる」95%以上 「悩みや不安の相談にのってくれる先生やカウンセラーがいる。」70%以上	「小中連携の取組に対する教員の満足度」80%以上 学校はお便りで学校や子どもたちの様子を伝えている」90%以上	

人材育成・組織運営
○教諭、主任教諭、主幹教諭にそれぞれの職層に応じて「東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標」に示された職務を遂行させ、個々の能力開発を図る。 ○不登校に関する校内研修を、年間を通じて行い、全教員で不登校生徒に関する理解を深め、学校の組織体制の在り方を考える。 ○初任・2 年次・3 年次の教員に、業務の種類ごとにそれぞれ先輩教員を割り当て指導に当たらせ、校内 OJT を進める。 ○働き方改革の一環として、毎週水曜日はノー部活デー・定時退勤日とし、教員が健全なワーク・ライフ・バランスを保てるようにする。